

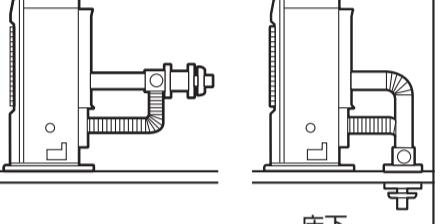
FR-V3600・FR-SS360F 工事説明書

設置工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据付けてください。なお、この工事説明書は、工事終了後に取扱説明書と一緒に必ずお客様にお渡しください。

*本文中のイラストはFR-V3600しております。

安全のために必ずお守りください	
警告	●ここに示した事項は、△警告、△注意に区分しています。
△警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
△注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

△警告

★据付けや移設は、販売店または据付業者がおこなってください。 お客様ご自身で据付けや移設をされ、不備があると感電や火災の原因になります。
★屋内給排気及び床下給排気禁止 屋内または床下に排気すると、排ガスが室内に漏れて危険です。必ず屋外に排気してください。 
★給排気筒を確実に接続 給排気筒を確実に接続し、しっかりと固定してください。風、振動、衝撃などで外れると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。 

△注意

★次の場所には据付けない。 火災や予想しない事故の原因になります。 ●温室、飼育室など人のいない場所。 ●付近に燃えやすいものがある場所。 ●水平でない場所、不安定な場所。 ●階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所。 ●不安全な物をのせた棚などの上。 ●防火対策をしていないマントルピース。 ●可燃性ガスの発生する場所またはまる場所。 ●特殊な壁（内部に通気層があるものなど）を使用している場所。 ●高地（標高1500m以上）では使用しないでください。酸素濃度が薄いので不完全燃焼します。標高1000~1500mの場所では再調整が必要です。 裏面の「高地仕様への変更のしかた」を参照して、調節してください。

226002080 F-B

……据付け方法

送油管の取付け
●タンクの送油バルブまたは、給油コックなどの油の出口とストーブの送油管に附属または別売のゴム製送油管を差し込み、附属品のホースバンド(小)で締め付けてください。また、ゴム製送油管は点検しやすいように配慮して取り付けください。
●一人製送油管の接続部のホースバンド(小)は締め付け不足や締め付けすぎに注意してください。
●送油管の上には重量物がのったり、折れ曲がったり、空気たまりができるような形状にならないようにご配慮ください。
●規定の送油管以外は使用しないでください。
●ゴム製送油管は、油タンクを屋外に設置する場合は使用しないでください。
●油タンクを屋外に設置する場合は、金属製送油管(外径8mmの銅管)を使用してください。

お願い
金属製送油管で配管する場合は、切断や加工時の切りくずや切り粉をきれいに取り除いてから配管してください。切りくずや切り粉が配管内に入りますと、ストーブの故障の原因になります。
●ゴム製送油管の取付けは、曲げ半径が小さかったりねじれたりするとゴム内部に応力が加わり短時間でヒビ割れなどが発生し油漏れの原因になります。曲げ半径は最低でも100mm以上になるよう、またねじれのないように設置してください。
●ゴム製送油管は紫外線に当たると劣化が早くなります。できるだけ日光の当たらぬ場所を選んでください。

ストーブの固定
ストーブの据付けが終りましたら、附属品の壁固定金具で本体を壁に固定してください。壁に固定できない場所での使用はおやめください。

①木または厚い合板の壁に固定する場合は、附属品の壁固定金具を固定し、木ねじを使用して壁に直接固定してください。
●リード線が、排気筒にぶれたり、踏んだり、引っかけたりしないように配線してください。
●附属品の木ねじで固定する場合は、木ねじを壁にねじ込んでからセンサークリップの裏面の穴に木ねじの頭を通して取り付けてください。

……据付け方法

②モルタル、コンクリートの壁に固定する場合は、コンクリート用プラグを壁に打ち込んでから、①項と同様に壁固定金具で固定してください。
給排気筒の取出し場所の選定
③石膏ボード、薄い合板など中空壁に固定する場合は、中空壁用プラグを壁に打ち込んでから、①項と同様に壁固定金具で固定してください。
④土壁、しつくい壁などに固定する場合は、壁にそえ木をしてから、①項と同様に壁固定金具で固定してください。

記録

●電源コードは傷付けたり、束ねたり、無理に曲げたりしないでください。また足でひっかけたり、重量物がのって破損しないようにご配慮ください。火災の原因になります。
●AC100V電源を使用してください。100V以外の電源を使うと、電気部品が故障したり、発火することがあります。コンセントは、雨や水のかからない場所に設置してください。またコンセントが傷んだり差し込みがゆいときは使用しないでください。感電・ショート・発火の原因になります。
●ストーブ背面のルームサーミスタの配線（移動）
●ストーブ背面のルームサーミスタを床面から1~1.5mの位置に取り付けてください。（リード線の有効長さは2.5mです。）

●ストーブの設置場所や周囲の状況によっては、お部屋の室温調整がうまくいかない場合があります。このような場合には、ルームサーミスタの位置を変更してください。
●リード線が、排気筒にぶれたり、踏んだり、引っかけたりしないように配線してください。
●附属品の木ねじで固定する場合は、木ねじを壁にねじ込んでからセンサークリップの裏面の穴に木ねじの頭を通して取り付けてください。

3 給排気筒の取付け

●使用する工事部品は、必ず本機の附属品及びトヨトミ純正別売部品の給排気筒を使用してください。
給排気筒の取出し場所の選定
●△警告、△注意の項をご確認ください。
●給排気筒トップが閉そくされないよう積雪の多い地方では注意してください。排ガスを再度吸込んで不完全燃焼を起こすことがあります。
●給排気筒トップは高温になります。人通りの多い所や、可燃物がある所や、可燃性ガスの発生する所には取り付けないでください。
●植木や愛がん動物は給排気筒トップの出口より遠ざけてください。
●小さなお子さまがぶれるような所には取り付けないでください。
●石油を燃焼させるため、点火時、室温調節器の作動時、消火時に、おいがでます。出入口に近い所、また、外気が室内に入りやすい所には取り付けないでください。隣の家に、においが入ることは迷惑となりますので、避けてください。
●壁に穴を開ける場合、壁の内部にあるすじかい・電気配線・ガス・水道の配管などにぶれない所を選んでください。
●高層建築の集合煙突を利用しての給排気は、火災予防上危険ですから、絶対におこなわないでください。

標準給排気筒の取付け

●壁内の鉄筋・鉄骨・電気配線・水道の配管を充分考慮してください。
●壁の厚さが130mm以下、320mm以上のものは使用できません。
●壁の厚さが130mm以下、320mm以上である場合は別売部品を使用してください。
●給排気筒の端面（パイプの先端など）でケガをしないように必ず手袋をはめておこなってください。
●緑色の絶縁シートは、はがさないでください。

- 設置場所を決めてください。
- 給排気筒の穴あけ位置を決めてください。同時に壁固定金具取付位置のねじ穴にも印をつけてください。
【裏面の取付け型紙をご使用ください】

△注意

●包装箱から製品を傷つけないように取り出し、包装材などを取除いてください。
●その他お使いになる前に製品の輸送中に生じた小ねじのゆるみやはずれなどをいかで調べてください。

●開こんが終わりましたら、つぎの附属品がすべてそろっていることを確認してください。

壁固定金具	ゴム製送油管(1m)	ホースバンド(小)
固定ねじ 2個 木ねじ 2本 タッピンねじ 2本	給油コックとストーブとの接続に使用してください。	2個

●屋内タンクをご使用の場合は、別売ゴム製送油管（※11070915・長さ3m）を使用してください。

●標準給排気筒セット		
●OリングP39 4種C	●OリングP39 4種C	●給気口キャップ 1個
●バイフルダー 1個	●バイフルダー 1個	●木ねじ4本（ルームサーミスタ用1本）
●ホースバンド(大) 2個	●ホースバンド(大) 2個	●断熱カバー 1個
●給気ホース 1個	●給気ホース 1個	●油タンク

●油タンクの組立てと据付け

●油タンクの据付けについては、各地の火災予防条例に従ってください。

●油タンクは、ストーブとの間に防火上有効な壁などがない場合は2m以上離してください。
--

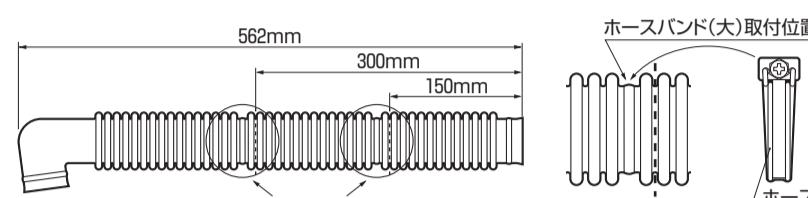
FR-V3600・FR-SS360F 工事説明書

給排気筒取付け型紙

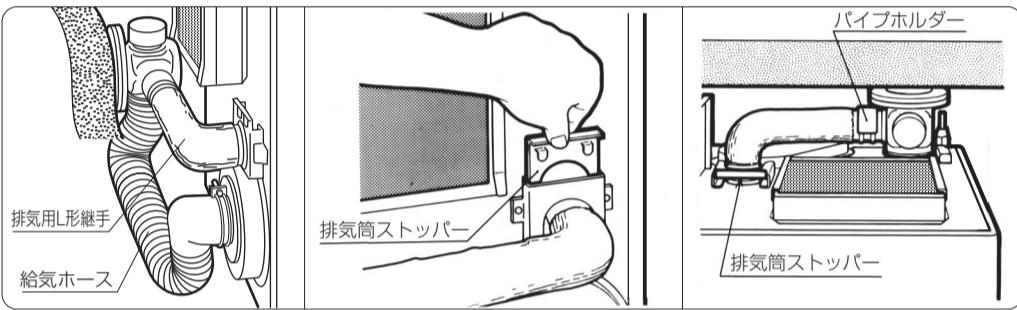
標準給排気筒の取付け

4 試運転

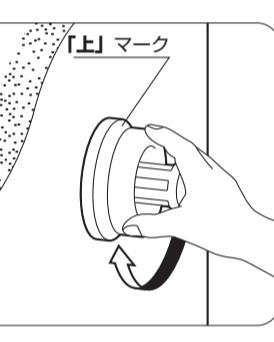
- ⑩ 給気ホースをチャンバー室の給気側とストーブ背面の給気口に取り付け、ホースバンド(大)で固定します。
●排気用L形继手を断熱カバーでしっかりと覆ってください。
●排気用L形继手が露出していないことを確認してください。
●給気ホースは、排気用L形继手に接触しないように取り付けてください。熱で変形するおそれがあります。
●給気ホース長さは、給排気筒トップの取付け位置によって、カッターナイフ、はさみなどを使用して下図の切断位置で、切って調節してください。



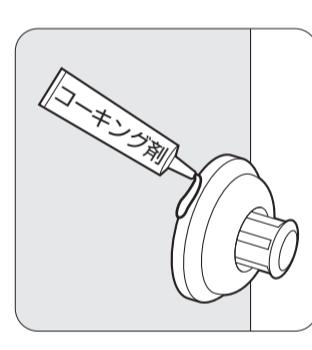
- ⑪ ストーブを静かに移動させ、排気用L形继手をストーブの排気口にはめ、ストーブに附属している排気筒ストッパーで固定します。また、チャンバー室側もパイプホルダーを使用して固定します。
●排気用L形继手を排気口にはめるとき、排気用L形继手のOリングに石けん水または水を塗ってからはめてください。
●給気ホースが排気用L形继手に接触していないことを確認してください。接触すると給気ホースが熱変形するおそれがあります。
●給気ホースがつぶれていないことを確認してください。



- ⑫ ⑨頂で軽くねじ込んで固定してトップ本体を、もう一度強くねじ込んでしっかりと固定してください。
●「上」マークを上側にすると約2°の傾斜がとれて、設置できます。



- ⑬ トップ本体のフランジ部全周などにコーキング剤(シリコン系)を塗布し、雨仕舞をしてください。

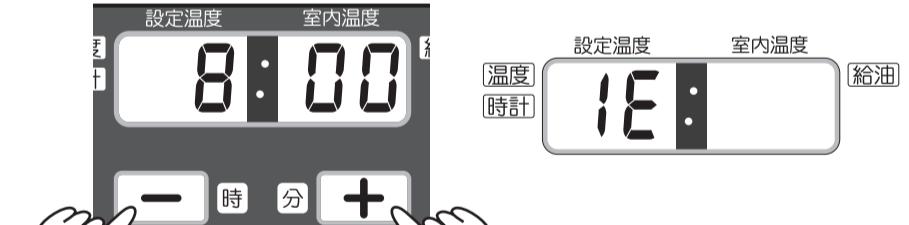


高地仕様への変更のしかた

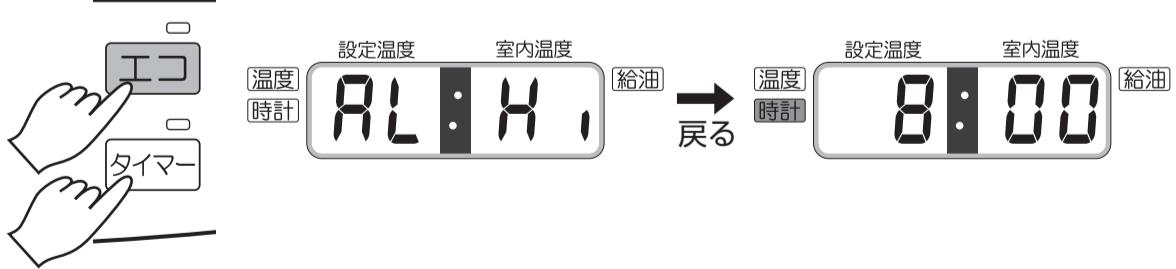
[標高1000~1500mの場合でご使用の場合]

*イラストはFR-V3600です。

1. 運転停止中に「-」「+」ボタンを同時に3秒押します。
デジタル表示部が「1E」表示に変わります。
(室内温度が表示されていることもありますが問題ありません。)



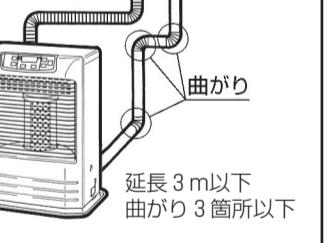
2. デジタル表示部が「1E」表示中にエコボタンとタイマーボタンを同時に3秒間押し続けます。
ブザー音がしてデジタル表示部に「AL Hi」表示が3秒間点滅し、元の表示に戻ります。これで高地設定は完了です。
一度設定をすれば電源プラグを抜いたり、停電があった場合でも高地設定は保持されます。



- お願い** 完全にコーキングしないと、雨水が室内や壁内に入ることがありますので、充分注意してください。

延長給排気工事の限界

- 延長工事部品は、必ずトヨトミ純正売却品FFP-68A(1m用セット)、FFP-69A(2m用セット)を使用してください。
●給排気筒の長さは3m以下、曲がりは3箇所以下にしてください。
●標準給排気方式以外にもお部屋の条件によって、排気筒と給気ホースを延長して取り付けることができます。
ただし延長限界は3m以下で曲がり3箇所以下です。



- お願い** ●やけど防止のため排気筒には、必ず断熱カバーを装着してください。
●壁や給気ホースに排気筒が接触しないように、パイプ支え金具で、壁などに固定してください。

集合煙突利用の禁止

高層建築の集合煙突を利用しての給排気は、火災予防上危険ですから、絶対におこなわないでください。

給排気筒の再利用時の注意

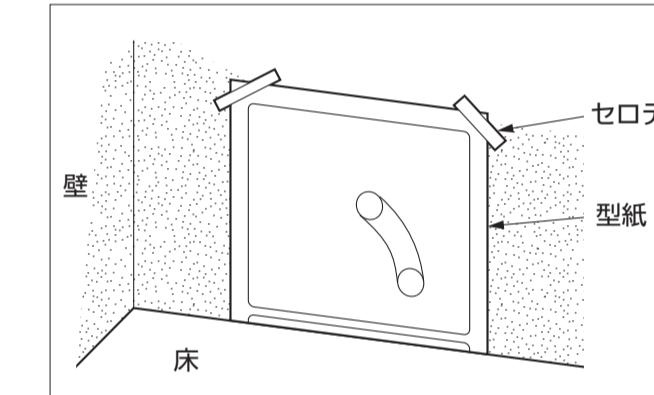
古い給排気筒は使用しないでください。必ず附属の給排気筒セットを使用してください。

5 廃棄するときの注意

ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。
リサイクルの支援となります。

型紙のご使用方法

- 1.型紙の床面を床に合わせて壁に貼り付ける。
- 2.壁固定金具が取り付けやすい位置を選びねじを取り付ける位置に印をつける。
- 3.穴あけ位置に給排気筒の取付け穴をあける。

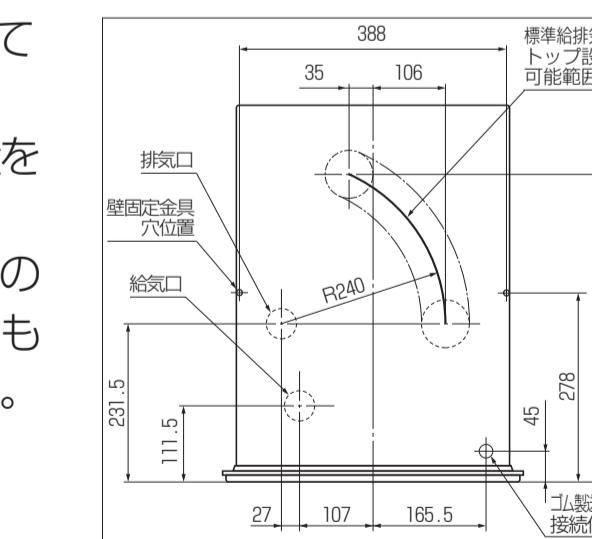


標準給排気筒の取付け

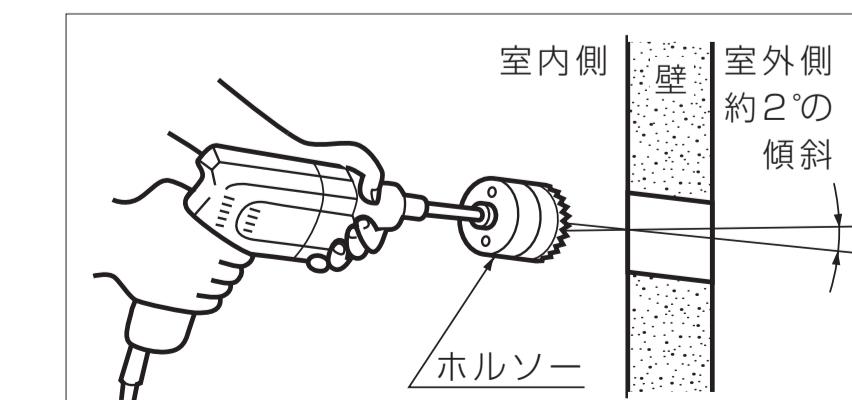
- | | |
|-----------|--|
| 注意 | ●壁内の鉄筋・鉄骨・電気配線・ガス水道の配管を充分考慮してください。 |
| 注意 | ●壁の厚さが130mm以下、320mm以上のものには使用できません。 |
| 指示 | ●壁の厚さが130mm以下、320mm以上のある場合は、別売部品を使用してください。 |

給排気筒の取付け、本体の固定方法は、裏面の説明書を良くお読みください。

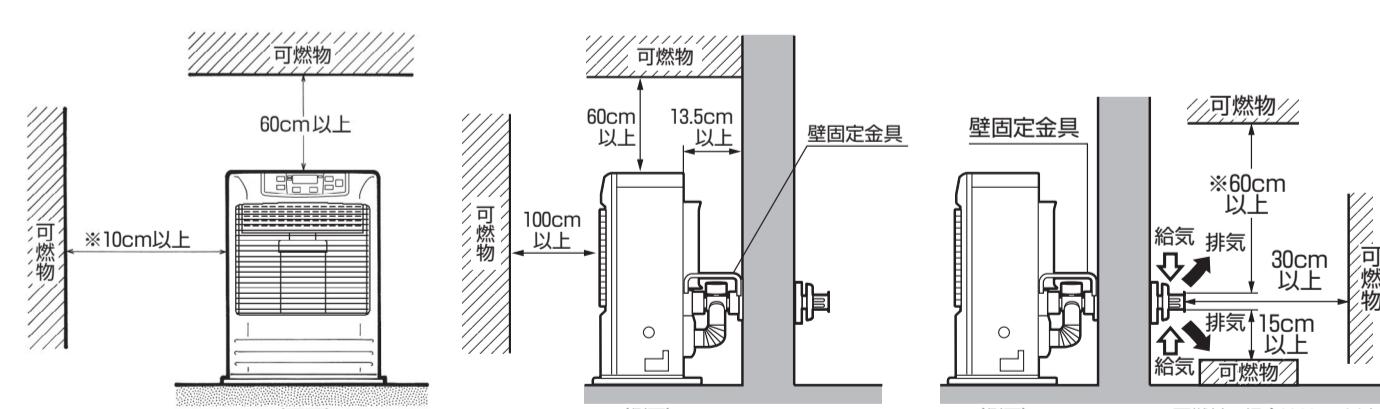
- 設置場所を決めてください。
- 給排気筒の穴あけ位置を決めてください。
同時に壁固定金具の取付け位置のねじ穴にも印をつけてください。



- 壁に給排気筒の穴(Φ70~Φ80)をあけてください。
室内側から室外に向けて約2°の傾斜で下向けてください。



- 可燃物との距離は下図に示す寸法以上離して設置してください。



*保守・点検のために片面は30cm以上離してください。
*FR-SS360Fはフロントパネルより前方に側壁がある場合、人感センサー誤作動防止のために両側30cm以上離してください。

